

実践事例集

事例 No. 20

本事例についてのお問い合わせは

群馬県庁国際課 太田

までお願いいたします

団体名 (個人名)	群馬県国際課 (太田祥一)
団体(個人) 所在地	〒 371 - 8570 前橋市大手町 1 - 1 - 1 群馬県庁国際課
T E L 番号	027-226-3396
F A X 番号	027-223-1692
メールアドレス	kokusaika@pref.gunma.jp
記載者の職・氏名	課長補佐 太田祥一

### 実践のあらまし

群馬県内には、言葉や文化・習慣の違いに戸惑いながら大勢の外国人児童・生徒が暮しています。いわゆるリ・マンショック後の景気の悪化により潜在化していた多くの課題が顕在化し、中でも児童生徒の「心のケア」は緊急の課題であり、県では母国語の心理カウンセラ - の設置と自然体験活動の実践を通じてその対応を検討しています。

国立赤城青少年交流の家と共催した「あかぎ多文化共生推進プロジェクト」で集団生活・宿泊や各種プログラムを外国人児童生徒が体験しその中から今後につながる課題も見えてきました。

### 実践の内容

- 1) 仲間作り あかぎアドベンチャー - プログラム・・交流の家スタッフの指導の下実施。
- 2) 日本語学習 普段とは違う環境での日本語学習(日本語教師有資格者による)
- 3) タベの集い 日本人との交流もできました。
- 4) 野外炊事 ほとんどが初体験で、スタッフが十分に危機管理を行いながら「豚汁」を作しました。
- 5) ネイチャー - ゲ - ム N G リ - ダ - によるネイチャー - ゲ - ム。J S L の A U の概念を活用し日本語学習の可能性も研究しました。
- 6) 民族舞踊でのお礼 練習してきたブラジルのダンスを職員の方々に披露しました。

### まとめ

国立赤城青少年交流の家で初めての事業でしたが、スタッフの先生方のご指導やご協力で生活面での問題もなく無事に終了しました。主に文化の違いに起因する課題がたくさん出てきましたが、今後の継続実施に向けて協力して解決していきたい思います。